

編集後記

『郵政博物館 研究紀要』第8号をお届けします。巻頭エッセイ1本、論文3本、研究ノート1本、エッセイ1本、資料紹介2本、資料調査報告1本、トピックス2本の構成です。

新井先生と後藤氏からは、軍事郵便に関するエッセイを寄稿いただきました。新井先生の巻頭エッセイでは、戦後70年が経過し、戦争を直接体験した人が少なくなった今日、軍事郵便は後世に戦争を伝える貴重な歴史的資料であるにもかかわらず、失われつつある現状に警鐘を鳴らし、軍事郵便のインターネット公開という新たな試みを通して戦争を伝承していく意義と今後の課題が論じられています。後藤氏のエッセイでは、人の「つながり」をテーマとした文学作品に登場する軍事郵便に注目し、そこから軍事郵便の現代的意義を見出そうとしています。

また寄稿いただいた研究は、明治期の郵便事業、高度成長期の郵便貯金、江戸時代の交通、飛脚とテーマも幅広く、小原氏、伊藤氏、高橋氏のご論考では当館収蔵資料を活用いただきました。巻島氏のご論考は、宮城県から京都府まで広域にわたる飛脚関係の金石史料の現地調査活動に基づく労作です。

郵政博物館の歴史は、明治35（1902）年6月20日に、当時の京橋区木挽町の逓信省内に「郵便博物館」を創設したことから始まり、今年で115年を迎えます。長年の収集活動により当館の資料は、データベースに登録されているものだけでも40万件を超えており、郵政歴史文化研究会の先生方をはじめ多くの方々のご協力を賜りながら、随時調査・整理を進めております。本年度は「定飛脚日記」、初期の国際年賀状、郵政事業関連の特許状の調査の成果が掲載されています。当館はまだ多くの未整理、未調査資料を収蔵しており、その中には貴重な歴史資料が埋もれているかも知れません。貴重な資料を預かる者として、また皆様により多くの研究材料を提供させていただくために、今後も一層資料の調査・整理に努めてまいります。

(研究会事務局 田原)

[編集委員]

石井 寛治（東京大学名誉教授）
新井 勝紘（元専修大学文学部教授）
杉浦 勢之（青山学院大学総合文化政策学部教授）
杉山 伸也（慶応義塾大学名誉教授）
藤井 信幸（東洋大学経済学部教授）
山本 光正（元国立歴史民俗博物館教授）
田良島 哲（東京国立博物館 学芸研究部 調査研究課長）

(分科会担当順)

郵政博物館 研究紀要 第8号

印刷 平成29年3月24日

発行 平成29年3月25日

編集 郵政歴史文化研究会

発行 公益財団法人 通信文化協会 博物館部（郵政博物館資料センター）

〒272-0141 千葉県市川市香取二丁目1番16号